

2. 家での学習の様子

① 家庭学習の頻度

週あたりの家庭学習の日数は、「ほとんど毎日する(6～7日)」19.5%、「週に半分以上はする(4～5日)」24.3%で、「家ではほとんど勉強しない」は23.1%と4人に1人に近い。時系列的にみると、「ほとんど毎日する」が28.2%(第1回)から19.5%(第3回)へと減少し、逆に「家ではほとんど勉強しない」が17.3%から23.1%へと増加をみた。学校ランクによる差も大きく、下位ランク校では家庭での学習習慣をほとんど持たない生徒たちが多数派を占める。

Q

家での勉強についてうかがいます(学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます)。あなたはふだん、家でどのくらい勉強をしますか。

第3回調査では、家庭での学習の習慣を、(1)週に何日くらい勉強をするか、(2)学習時間の長さ、(3)テスト前の勉強の開始時期という3つの側面からとらえた。

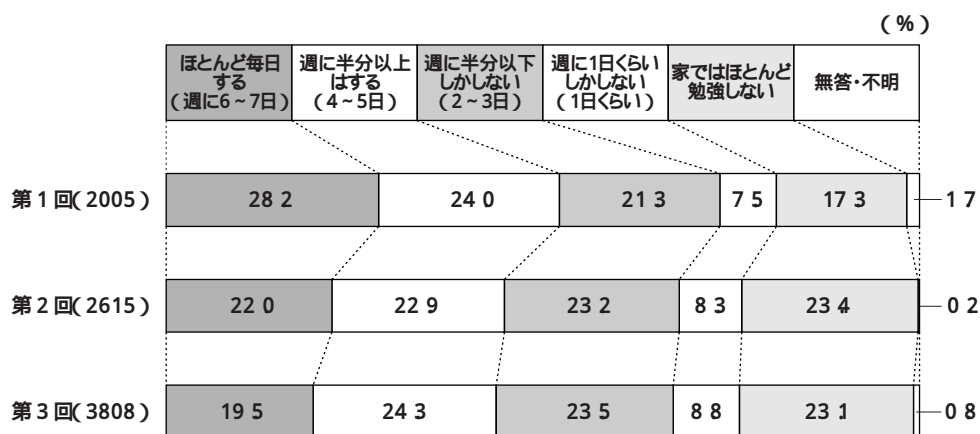
まず、週に何日くらい家で勉強するかである。学習塾や予備校、家庭教師との学習は除いて尋ねた。

全体としてみると、「ほとんど毎日する(6～7日)」が19.5%、「週に半分以上はする(4～5日)」が24.3%であり、両者を合わせるとおよそ45%が週に4日ないし5日以上学習す

る習慣を持っていることになる。他方、「家ではほとんど勉強しない」と答えた生徒は23.1%と4人に1人に近い。

これを時系列的にみると、「ほとんど毎日する」が28.2%(第1回)から19.5%(第3回)へと減少し、逆に「家ではほとんど勉強しない」が17.3%から23.1%へと増加をみた。1990年代を通じて、高校生の家庭での学習頻度はより小さい方向へとシフトし、「(家庭)学習からの撤退」が進んだといえる(図1-1-12)。

図1-1-12 家庭学習の頻度(時系列)



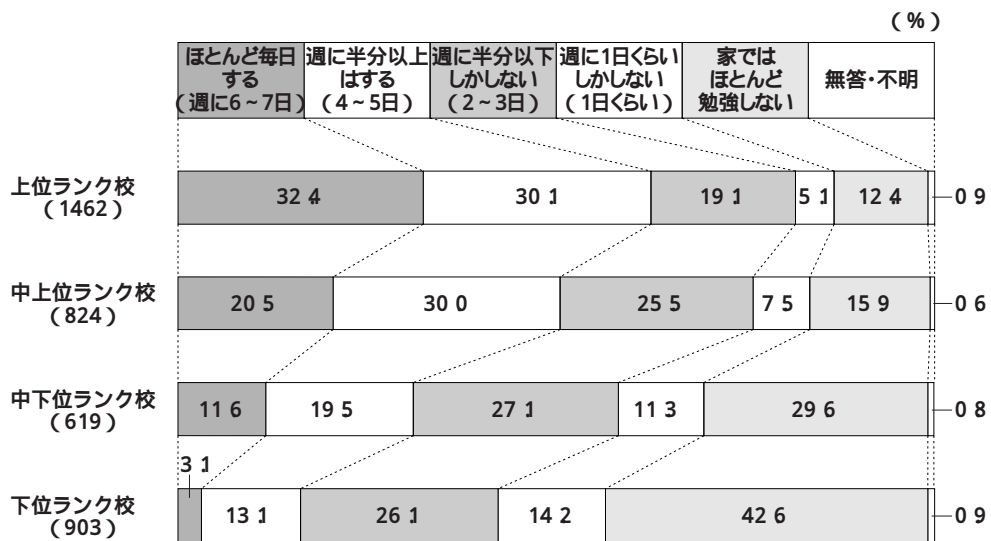
注) ()内はサンプル数。

家庭での学習習慣は、在学する学校によって大きく異なっている（図1-1-13）。

上位ランク校では、「ほとんど毎日する」が32.4%、「週に半分以上はする」は30.1%であり、6割以上が少なくとも週に半分以上家庭で勉強する習慣を保持している。「家ではほとんど勉強しない」は12.4%と1割強にとどまる。

他方、下位ランク校では、「家ではほとんど勉強しない」が42.6%と最頻値であり、「週に1日くらいしかない」14.2%を合わせると半数を超える。「ほとんど毎日する」はごくごく少数で3.1%、「週に半分以上はする」も13.1%にすぎない。家庭での学習習慣をほとんど持たない生徒たちが多数派を占めるような学校風土が優勢である。

図1-1-13 家庭学習の頻度（学校ランク別）



注) ()内はサンプル数。

②家での学習時間

平日の学習時間の平均は71分、日曜日の学習時間は87分、平日のテレビ視聴時間は112分である。平日の学習時間について分布をみると、もっとも多いのが「ほとんどしない」の22.8%。これに「およそ30分」14.3%と「1時間」20.4%を加えた1時間程度以下の学習時間の者は、合計6割弱（57.5%）に及ぶ。反対に、3時間以上学習する者は、1割を切る。学習時間は学校ランクが下がるにつれて激減する傾向にある。

平日の学習時間（平均）を時系列的にみると、第1回調査92分、第2回調査77分、第3回調査71分で、約10年間に2割強の減少をみた。「ほとんどしない」は第1回調査16.8%から第3回調査22.8%へと増加し、「3時間以上」は17.8%から8.7%へと半減した。

Q

- ・あなたはふだん（月曜日～金曜日）学校での授業以外に1日に何時間くらい勉強していますか。学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。
- ・日曜日は、家で何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。
- ・ふだん（月曜日～金曜日）テレビを1日に何時間くらい見ますか。

それでは、高校生は1日に何時間くらい勉強しているのだろうか。今度は学習習慣を時間的長さの面からとらえてみよう。平日（月曜日から金曜日）と日曜日に分けて、塾や予備校などを含めた勉強時間を尋ねた（平日の学校での授業の時間は除く）。なお、対照のために平日のテレビを見る時間も尋ねている。

全体としてみると、平日の学習時間の平均（概算）は1時間11分（71分）、日曜日の学習時間は1時間30分弱（87分）。一方、平日にテレビを見る時間は2時間弱（112分）である。平日よりも日曜日のほうが勉強時間が長く、また平日に勉強する時間は、テレビを見る時間より約40分短い。

図1-1-14はその分布をみたものである。平日の学習時間は、最頻値が「ほとんどしない」の22.8%。「およそ30分」が14.3%、「1時間」が20.4%であり、これらを合わせた1時間程度以下の学習時間の者は、合計6割弱

（57.5%）に及ぶ。3時間以上学習する者は、1割を切る。時間の観点からみる限り、多くの高校生にとって、家庭は勉強中心の場とはなっていない。

図1-1-15は、平日の学習時間、日曜日の学習時間、平日のテレビ視聴時間の平均値を、学校ランク別に示したものである。学校ランクによって、それらの時間は大きく異なっている。

図をみると、学校ランクが下がるにつれてテレビ視聴時間（平均）はゆるやかに増加する（上位ランク校96.3分→中上位ランク校119.0分→中下位ランク校121.4分→下位ランク校126.8分）。これに対して学習時間は逆に学校ランクが下がるにつれて激減する。平日の学習時間の平均は、上位ランク校98.8分、中上位ランク校67.0分、中下位ランク校56.8分、下位ランク校38.2分である。

それでは、高校生の学習時間は、第1回調

図1 - 1 - 14 家での学習時間・テレビ視聴時間

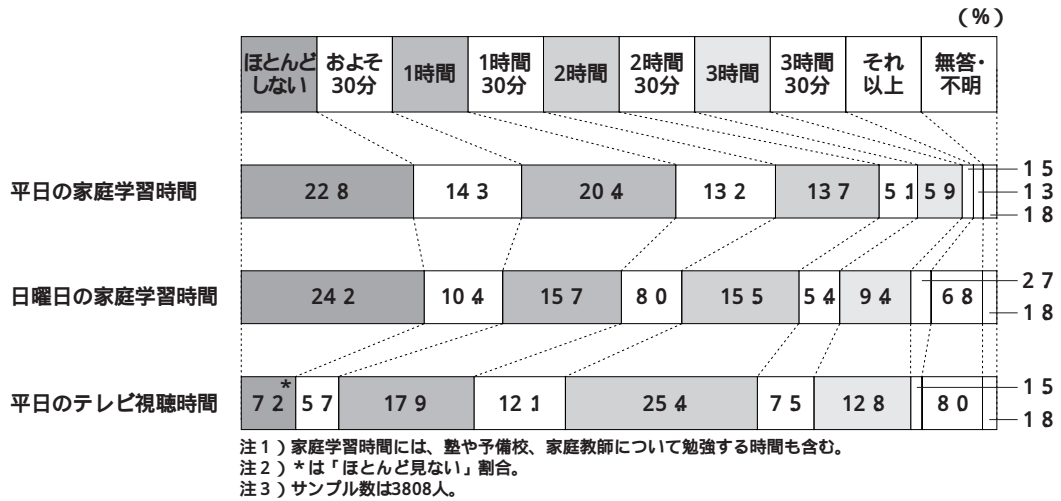
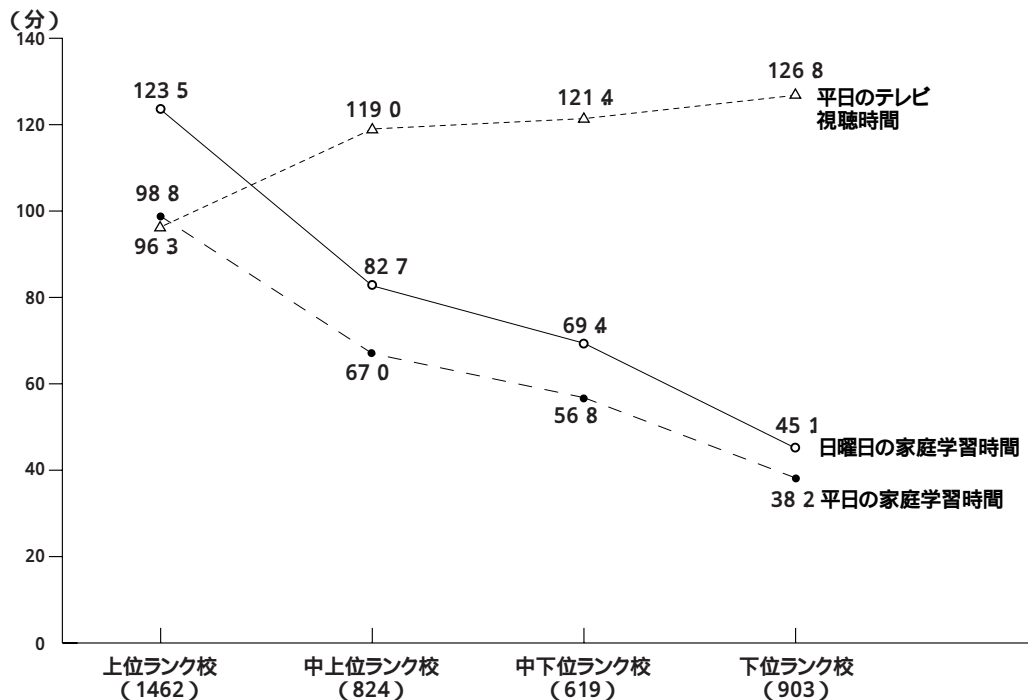


図1 - 1 - 15 家での学習時間・テレビ視聴時間（学校ランク別平均値）



注1) 数値の単位は分。

注2) 「ほとんどしない(ほとんど見ない)」を0分、「およそ30分」を30分、「1時間」「1時間30分」「2時間」「2時間30分」「3時間」「3時間30分」はそれぞれの時間。「それ以上」を4時間として平均時間を算出した。

注3) () 内はサンプル数。

査からどう変化してきたのだろうか。

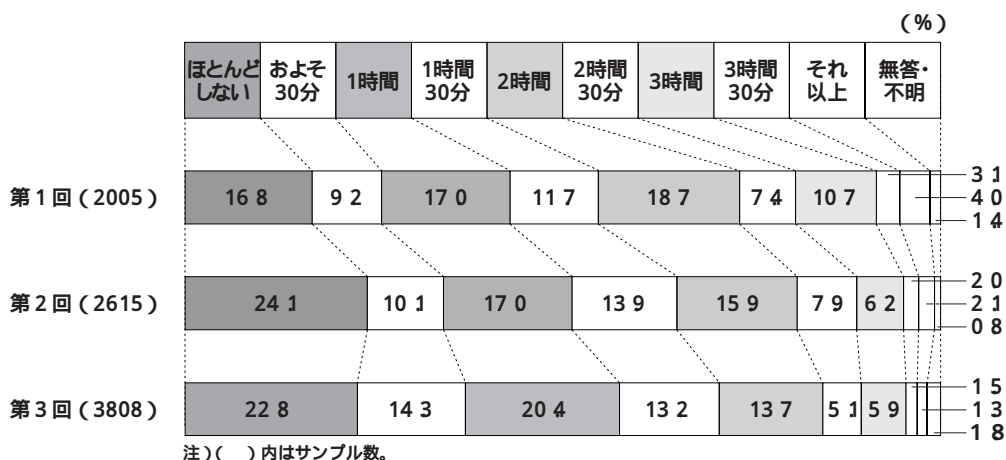
第1回調査時点における平日の学習時間の平均は92分、第2回調査は77分であった。第3回調査のそれは、先に述べたように71分である。約10年間に、高校生の学習時間は、実時間にして約20分、2割強の減少をみた。

学習時間の分布の変化をみると(図1-1-16)「ほとんどしない」は第1回調査16.8%から第3回調査22.8%へと増加し、「3時間以上」「3時間」「3時間30分」「それ以上」の合計)は17.8%から8.7%へと半減した。

第1回調査時点における回答の最頻値は「2時間」であったが、第3回調査時点では「ほとんどしない」となった。この結果が、先の平均時間の減少である。

1990年代は、長く抑制されてきた高等教育進学率が上昇に転じ、高卒者の進路と高校進路指導が「進学シフト」を経験した時代だった。上級学校へとさらに進学して学習する生徒が増加したこの時期に、高校生の学習時間は減少し、「学びからの撤退」現象が進展した。

図1-1-16 平日の家庭学習時間(時系列)



③テスト勉強の開始時期

テスト勉強の開始時期は、「1週間くらい前から」35.5%、「10日くらい前から」16.4%、「4～5日くらい前から」14.1%で、1週間くらい前を中心としてその前後から始めるのが一般的である。「ほとんどしない」は2.1%、「当日の朝くらい」は1.0%とごく少数派である。



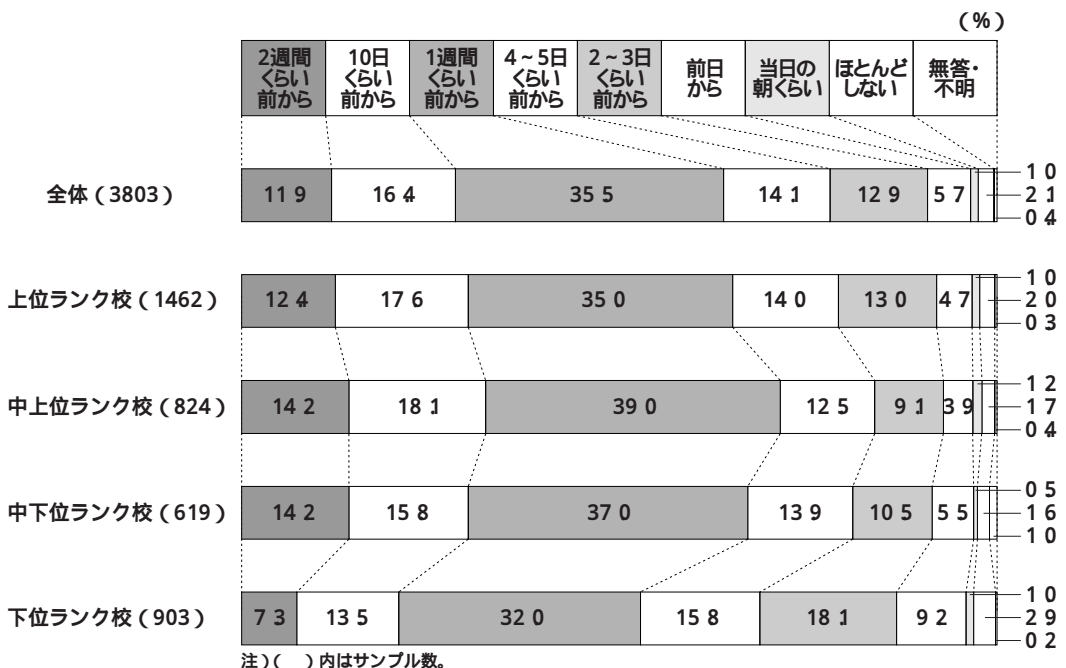
テスト（定期考査）前には、あなたはいつ頃からテスト勉強を始めますか。

高校生はテスト（定期考査）前にいつ頃から、いわゆるテスト勉強を始めるのだろうか。全体的としてみると（図1-1-17）最頻値は「1週間くらい前から」で35.5%、これに「10日くらい前から」（16.4%）「4～5日くらい前から」（14.1%）が続く。「ほとんどしない」は2.1%、「当日の朝くらい」は1.0%とごく少数派である。通常は家ででの学習習慣がない生徒であっても、テスト前にはなんらかのテスト勉強をすることが推測できる。テ

スト勉強の開始時期はおよそ1週間くらい前を中心としてその前後から始めるというのが一般的である。

学校ランク別にみると、中上位ランク校でやや早めにテスト勉強が開始される傾向があり、下位ランク校で準備が遅い。「1週間くらい前」以前からテスト勉強を開始する生徒の比率は、上位ランク校65.0%、中上位ランク校71.3%、中下位ランク校67.0%、下位ランク校52.8%である。

図1-1-17 テスト勉強の開始時期（学校ランク別）



④家での勉強内容

家でする勉強の内容として半数を超えているのは、第一に「学校の宿題」(81.4%)、第二に「学校の授業の予習」(64.5%)である。この2つ以外はいずれも4割を切っており、高校生の学習が学校中心、予習中心であることがわかる。第1回調査から第3回調査にかけて、予習中心の傾向がますます強まった(「学校の授業の予習」第1回55.1%→第2回59.2%→第3回64.5%)。

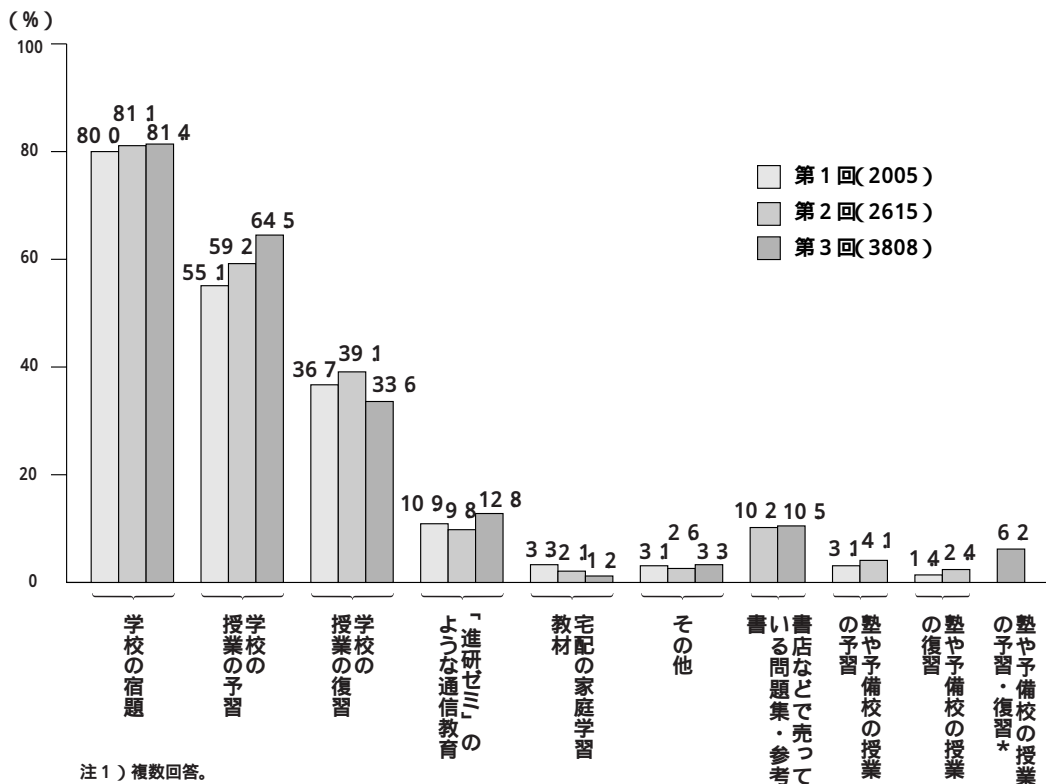


家では主にどんな勉強をしていますか。

ここまで家庭での学習について、主として量的な側面(家庭学習の頻度や時間)に注目してきた。次に質的な側面をみることにしよう。まず、家での勉強の内容である。

家でする勉強の内容として半数を超えているのは、第一に「学校の宿題」(81.4%)、第二に「学校の授業の予習」(64.5%)である(図1-1-18)。この2つ以外はいずれも4

図1-1-18 家での勉強内容(時系列)



割を切っている。「学校の授業の復習」をあげるのは33.6%とおよそ3分の1であり、この数値を「学校の授業の予習」と比較すると、復習ではなく予習中心という高校生の家庭学習の特徴が浮び上がってくる。

「塾や予備校の授業の予習・復習」「通信教育」「家庭学習教材」をあげる者は、いずれも1割台かそれ以下であり、高校生の学習が学校の授業中心であることを示している。「書店などで売っている問題集・参考書」は10.5%である。

時系列的にみると、「学校の授業の予習」が大幅に増加し（第1回55.1%→第2回59.2%→第3回64.5%）、「学校の授業の復習」がわずかに減少した（36.7%→39.1%→33.6%）。予習中心の傾向がいっそう強まった。なお、絶対値は小さいものの、「宅配の

家庭学習教材」は低下傾向にある（3.3%→2.1%→1.2%）。

家での勉強内容には、学校ランクによる差がみられる。もっとも対照的なのは上位ランク校と下位ランク校である。上位ランク校の高校生ほど、「学校の授業の予習」「学校の授業の復習」「塾や予備校の授業の予習・復習」「書店などで売っている問題集・参考書」が多い傾向がある。「学校の宿題」と答えた者は、上位ランク校でもっとも少なく、中上位ランク校でもっとも多い。「『進研ゼミ』のような通信教育」は、上位ランク校、中上位ランク校、中下位ランク校では14～15%程度と変わらないが、下位ランク校では6.5%と格段に少なくなっている（表1-1-4）。

表1-1-4 家での勉強内容（学校ランク別）

(%)

	上位ランク校 (1462)	中上位ランク校 (824)	中下位ランク校 (619)	下位ランク校 (903)
学校の宿題	77.2	86.3	83.8	81.9
学校の授業の予習	79.4	68.7	56.2	42.1
学校の授業の復習	36.9	32.2	28.8	33.0
塾や予備校の授業の予習・復習	8.3	6.7	4.7	3.4
「進研ゼミ」のような通信教育	15.1	14.4	14.4	6.5
宅配の家庭学習教材	1.3	1.1	1.3	1.2
書店などで売っている問題集・参考書	13.9	8.6	11.8	5.9

注1) 複数回答。

注2) () 内はサンプル数。

⑤家での学習の様子

「あてはまる」「まああてはまる」の合計比率が大きい順に、「出された宿題をきちんとやっていく」(78.8%)、「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」(74.5%)、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」(65.0%)、「自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる」(64.2%)、「予習をしてから授業を受ける」(60.9%)と並ぶ。概して、肯定的に家庭での学習態度を評価する回答が目立つ。時系列的にみると、「予習をしてから授業を受ける」「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」「出された宿題をきちんとやっていく」と答えた生徒が増加した。



家での勉強についてうかがいます。

7割以上の生徒が「あてはまる」あるいは「まああてはまる」と回答したのは、「出された宿題をきちんとやっていく」(78.8%)と「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」(74.5%)である(図1-1-19)。これに続いて、6割程度の生徒が肯定したのは、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」(65.0%)、「自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる」(64.2%)、「予習をしてから授業を受ける」(60.9%)、「ラジオやテレビ、CDをつけっ放しで勉強する」(58.0%)の4項目である。概して、肯定的に家庭での学習態度を評価する回答が目立つ。

「机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる」(42.1%)、「計画を立てて勉強する」(39.1%)は4割程度の生徒がそう答えている。肯定率が低かったのは、「授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる」(24.3%)と「授業で習ったことは、その日のうちに復習する」(23.6%)である。

第3回調査で新たに設問を加えた「『勉強は学校だけですればいい』と思う」は、「あてはまる」9.5%、「まああてはまる」27.5%、「あてはまらない」61.8%であった。6割を

超える生徒が、学校以外の場所でも学習する必要性を認識している。

学校ランク別に差がみられたのは、この「『勉強は学校だけですればいい』と思う」1項目だった(図1-1-20)。下位ランクの高校ほど、「あてはまる」と「まああてはまる」とする者が多い傾向が明確に出ている。家庭での学習頻度や学習時間と符合した結果が出ている。

第1回調査から第3回調査にかけて、目立った変化がみられたのは、図1-1-21にあげた4項目であった。「予習をしてから授業を受ける」と答えた生徒は第1回47.5%→第2回51.8%→第3回60.9%と増加した。「家での学習内容」(前項)においてみられた予習の増加と一致した結果である。

「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」(69.0%→71.1%→74.5%)、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」(45.9%→56.1%→65.0%)、「出された宿題をきちんとやっていく」(73.1%→74.2%→78.8%)の3項目についても増加傾向がみられる。宿題はもちろん、嫌いな科目も一生懸命に、より自主的に学習するようになった。

図1 - 1 - 19 家での学習の様子

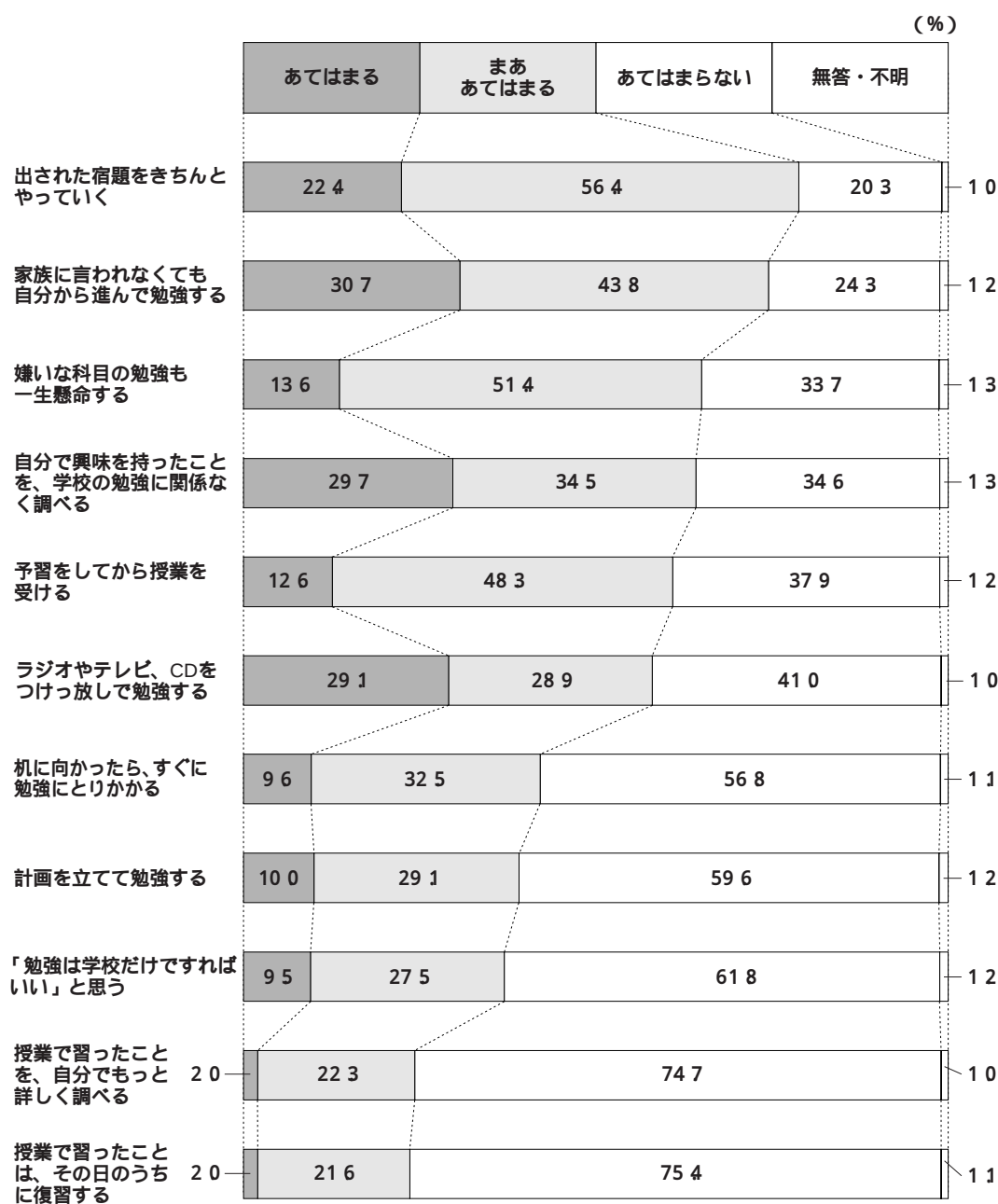


図1 - 1 - 20 「『勉強は学校だけですればいい』と思う」(学校ランク別)

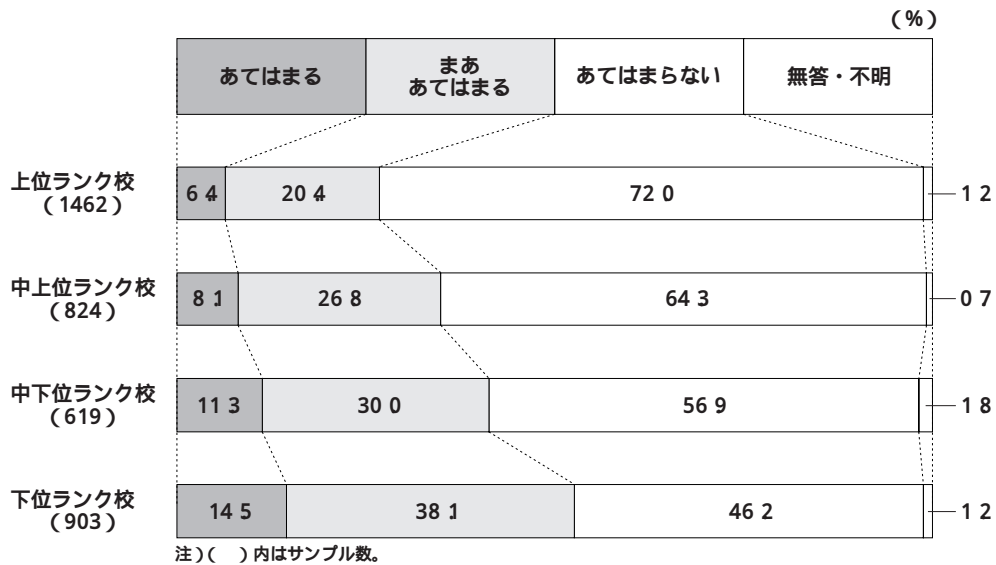
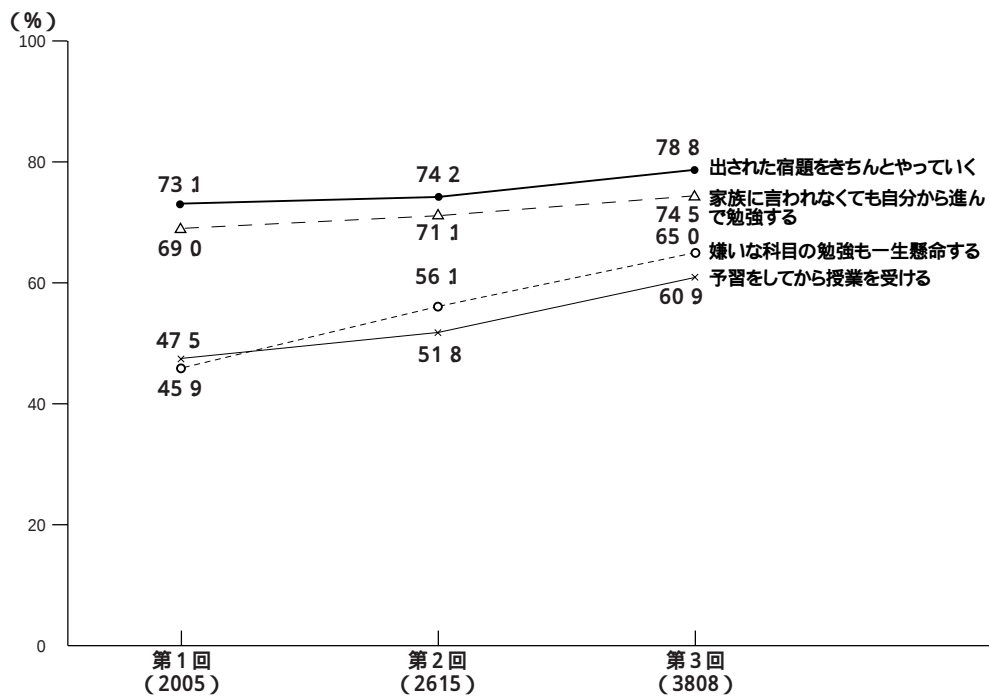


図1 - 1 - 21 家での学習の様子(時系列)



注1) 数値は「あてはまる」と「まああてはまる」の合計。

注2) () 内はサンプル数。

⑥日常生活の中での「学習」

第1回調査と比較してみると、頻度が小さくなったのは「新聞のニュース欄を読む」(71.6%→52.7%)「歴史小説や歴史の本を読む」(30.5%→22.2%)「読みたい本を本屋で探して買う」(67.4%→61.0%)などである。ことに、新聞のニュース欄を読む高校生は激減した。



あなたは、ふだん（学校の授業や宿題以外で）次のことをどのくらいしますか。

高校生の学業達成や学習内容の理解度は、授業を聞いたり、学校の宿題や予習、復習をしたり、あるいは塾や予備校で受験勉強をしたりといった、直接学校の学習にかかわる行動だけに規定されているわけではない。そこには、そうした行動の背景にあって学業達成や理解度を左右するさまざまな要因が存在する。ここでは学業達成や理解度にかかわるけれども、直接的には学校の学習にかかわらない諸行動を「日常生活の中での『学習』」としてとらえ、その状況をみることにする。「学力の裾野」と言い換えてもよい。学校での学業達成や授業の理解は、そうした日常的な知的行動や情報の摂取、知的関心に基礎づけられてはじめて高められるものと考えることができる。

具体的には、図1-1-22にあげた項目を用い、それぞれについて学校の授業や宿題以外での行動の頻度を尋ねた。

高校生の半数以上が「よくする」「時々する」と答えたのは、以下の2項目である。

- ①「読みたい本を本屋で探して買う」(61.0%)
- ②「新聞のニュース欄を読む」(52.7%)

逆に、回答率が3割以下であり、多くの高校生にとってなじみが薄い行動は次のもので

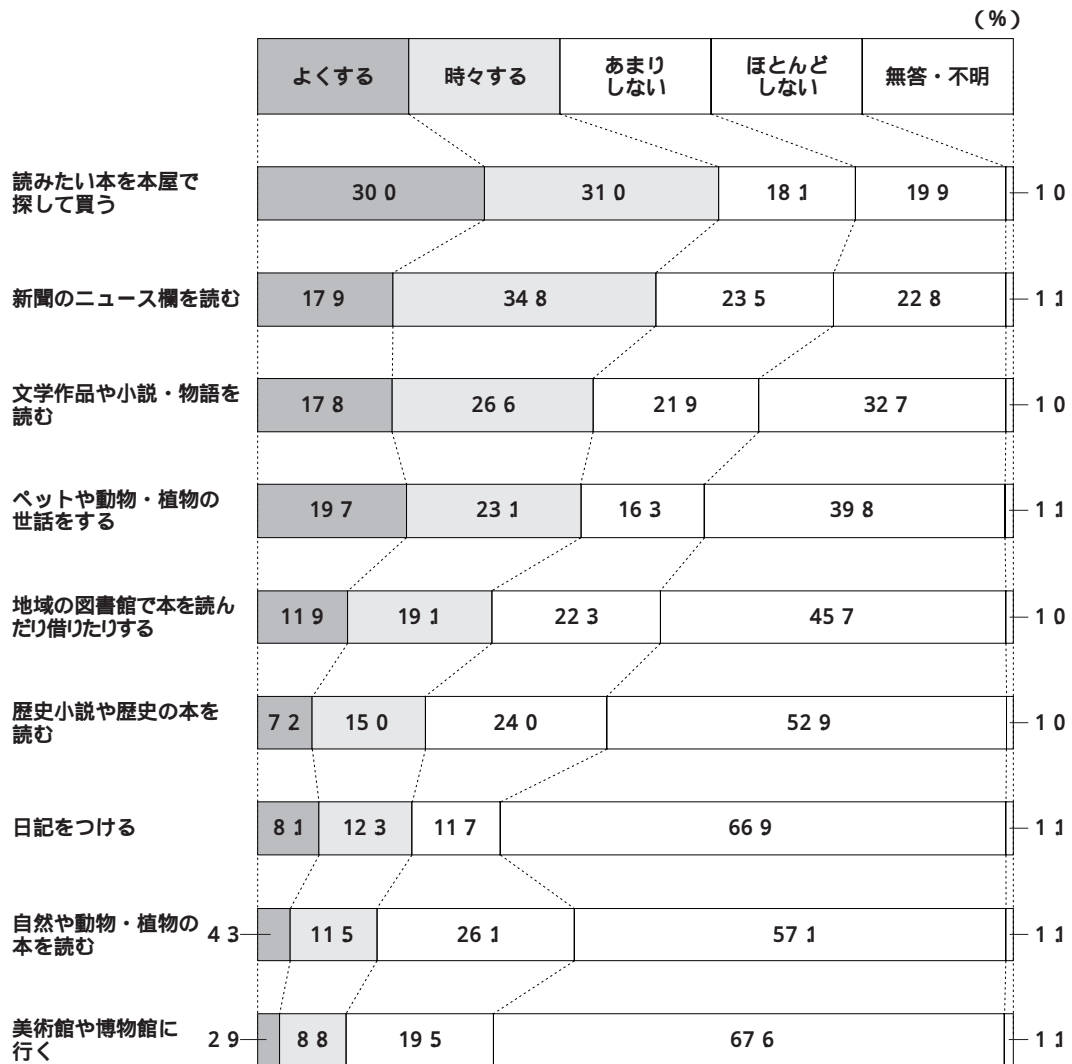
ある。

- ①「美術館や博物館に行く」(11.7%)
- ②「自然や動物・植物の本を読む」(15.8%)
- ③「日記をつける」(20.4%)
- ④「歴史小説や歴史の本を読む」(22.2%)

こうした行動については、受験勉強などの目的を絞った学習にとっては迂遠でありむしろ非効率的であると考えられがちだが、その重要性をよく認識した上で、指導がなされることが望ましいと思われる。生涯学習時代の到来を考慮すれば、学校での授業や受験に焦点づけられた学習以上に、図にあげた諸学習行動の習慣の形成のほうが重要性が大きいと考えられる。

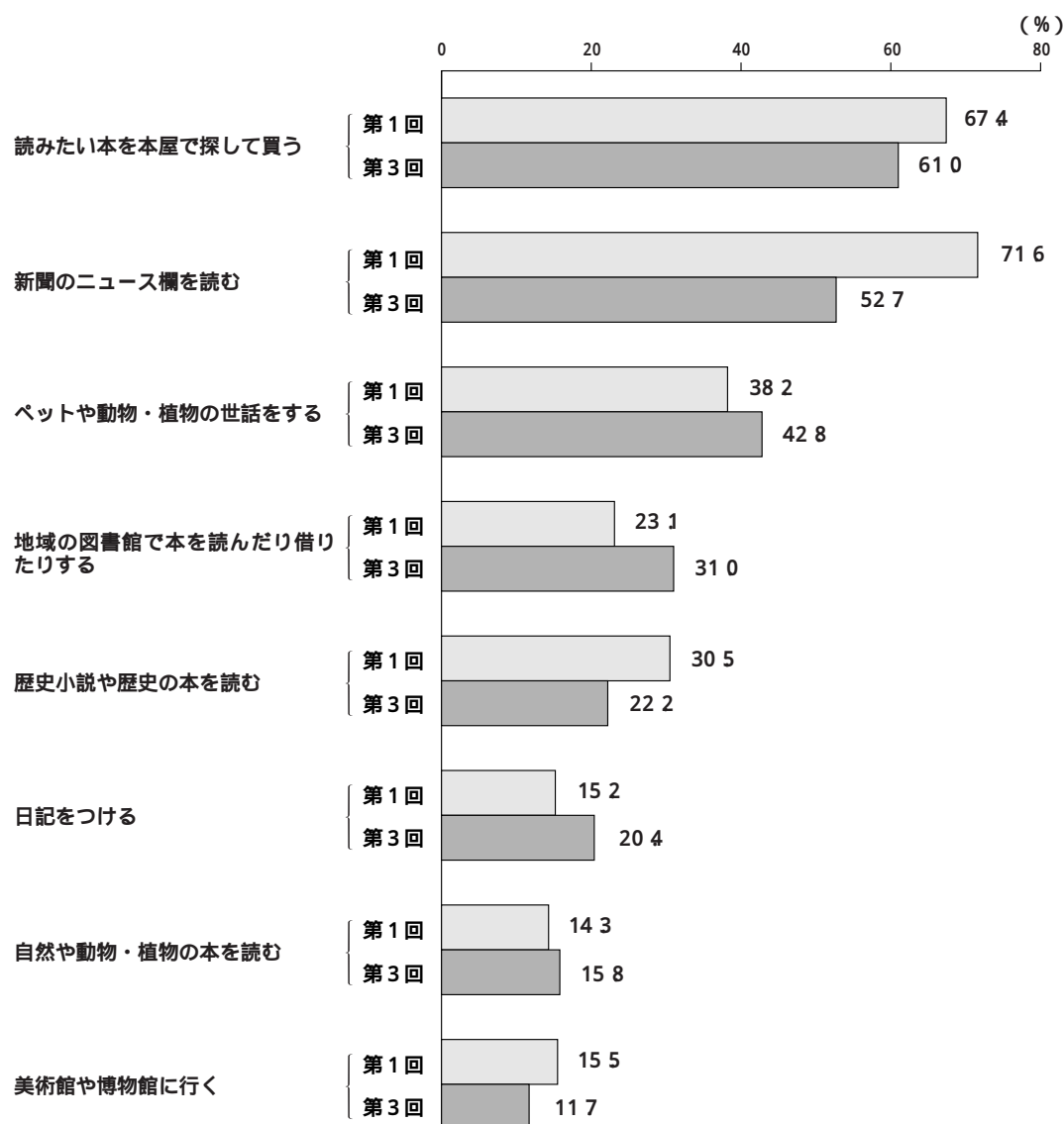
以上の結果を、第1回調査と比較してみよう。第1回調査と比較してより頻度が大きくなったのは、「地域の図書館で本を読んだり借りたりする」(23.1%→31.0%)と、「日記をつける」(15.2%→20.4%)の2つである。逆に、頻度が小さくなったのは、「新聞のニュース欄を読む」(71.6%→52.7%)「歴史小説や歴史の本を読む」(30.5%→22.2%)「読みたい本を本屋で探して買う」(67.4%→61.0%)である。ことに、新聞のニュース欄を読む高校生は激減した(図1-1-23)。

図1 - 1 - 22 日常生活の中での「学習」



注) サンプル数は3808人。

図1 - 1 - 23 日常生活の中の「学習」(時系列)



注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。
 注2) 第2回は該当項目なし。
 注3) サンプル数は第1回2005人、第3回3808人。

⑦ 家庭環境

保護者の高学歴化を示す項目で変化が大きい。さらに、「ほとんど毎日、家の人は私に『勉強しなさい』と言う」は、第 1 回調査22.1%から第 3 回調査 16.2%へと減少している。



あなたの家のことについてうかがいます。

この項の最後に、生徒の学習を取り巻く、家庭の文化的環境や保護者の学業関心などについて、時系列的に比較した結果をみておこう。

もっとも目立った変化は、保護者からの勉強に関するプレッシャーが弱くなってきたことを示唆する変化である。「ほとんど毎日、家の人は私に『勉強しなさい』と言う」は、

第 1 回調査22.1%から第 3 回調査16.2%へと減少している。

また、全般的な高学歴化を反映して、大卒の父親の比率は29.0%（第 1 回）から45.6%（第 3 回）へ、また大卒・短大卒の母親の比率も18.2%から37.9%へと増加した（表 1 - 1 - 5）。

表 1 - 1 - 5 家庭の文化的環境（時系列）

（％）

	第 1 回（2005）	第 2 回（2615）	第 3 回（3453）
家には本（マンガや雑誌以外）がたくさんある	53.4	54.6	51.5
自分一人の勉強部屋を持っている	74.4	78.1	76.3
ほとんど毎日、家の人は私に「勉強しなさい」と言う	22.1	20.7	16.2
この 1 か月の間に、お父さんやお母さんに勉強をみてもらったことがある	—	—	7.9
お父さんやお母さんとよく話をする	—	—	63.3
お母さんは私の成績をよく知っている	72.2	66.4	72.2
お父さんは私の成績をよく知っている	45.5	42.0	45.1
家の人に博物館や美術館に連れていってもらったことがある	38.0	38.8	37.9
お父さんは大学を卒業している	29.0	35.2	45.6
お母さんは大学や短期大学を卒業している	18.2	26.0	37.9

注 1）——は該当項目なし。

注 2）（ ）内はサンプル数。第 3 回は、回答を拒否した355名を除外して計算した。